保育者養成校における音楽指導法の研究—第8報— —主に「ピアノ個人レッスンサポート講座」実施について—

白石景一・中村浩美

The Study of Music Teaching Method at Training School for Child-Care Works Report 8.
mainly about on the contents of a supporting course for private piano lessons.

Keiichi SHIRAIISHI · Hiromi NAKAMURA

キーワード：ピアノ初心者・保育者養成・音楽指導法・入学前教育・導入教育

1. はじめに

平成17年度、長崎女子短期大学紀要に「保育者養成校における音楽指導法研究—第1報—」とし、本学幼児教育学科専門科目「音楽Ⅰ」「音楽Ⅱ」の指導法についてとりあげ、その現状と評価、指導上の要点、今後の研究の方法や方向性（2～3年前から自己点検評価→第三者評価などで義務化されたPDCAサイクルによる方法・考え方に先駆けて実施してきた）などについて報告した。

平成18年度はこの継続研究—第2報—として「ピアノ初心者などの指導法」を主に取り上げ、本学幼児教育学科のピアノ初心者や音楽が不得手な学生に対する「指導実践の内容」や「新たな試み」などについて幼児教育学科専門科目「音楽Ⅰ」「音楽Ⅱ」「幼児音楽指導法」の指導法を中心に報告した。

平成19年度は、「保育者養成校における音楽指導法の研究—第3報—」として第2報に引き続きサブテーマ「主にピアノ初心者の指導法について（2）」として平成18年度から「音楽Ⅰ」「音楽Ⅱ」「幼児音楽指導法」において新たに実施した指導法などの評価や課題とその対応・改善の報告と、「音楽基礎ゼミナール」「2オクターブスケールと易しいカデンツ」「マーチアルバム」「カリキュラムの改訂」「ソナチネアルバムに替わる教材」「幼児音楽指導法（保育内容）・音楽Ⅰ・音楽Ⅱ

の連携」などについて報告した。

平成20年度は、「保育者養成校における音楽指導法の研究—第4報—」として、これまでの評価・改善などに対するの検証と「音楽Ⅱ」における「音楽遊び」の指導内容・方法についても報告した。

平成21年度は、「保育者養成校における音楽指導法の研究—第5報—」サブテーマ「主にピアノ初心者の指導法について（3）」として平成17年度からの継続的授業評価と改善への検証について報告した。また、かねてからの課題であったピアノ初心者への「和音コード利用による簡易伴奏法の指導」についての新たな試みについても報告した。

平成23年度は、「保育者養成校における音楽指導法の研究—第6報—」サブテーマ「主にピアノ初心者の指導法について（4）」とし、「子どもの歌伴奏法」としての初年度でもあるので、コード伴奏法の教育効果や課題などについて検証も含め、1年間の振り返りを報告した。

平成24年度は、「保育者養成校における音楽指導法の研究—第7報—」サブテーマを「主に音楽あそびの指導法について（1）」とし、幼児教育学科専門科目2年次開講の「保育と音楽表現」における「音楽あそびの指導法」についての研究報告を行った。

本年度（平成25年度）は、「保育者養成校にお

ける音楽指導法の研究－第8報－」として、主に「ピアノ個人レッスンサポート講座」実施について報告し、入学前教育について問題を投げかけた。平成25年度九州公私立大学音楽学会北九州大会第45回大会フォーラムに於いても「幼児教育における音楽指導のあり方について」のテーマから「入学前の音楽講座の有効性」について本学幼児教育学科において本年度（25年度）入学生を対象に実施したことについて報告し「音楽教育」や「幼児教育における音楽指導」や「入学前の音楽講座の有効性」などについて活発な意見交換がなされた。本年度紀要では、その報告も含めたい。

2. 「ピアノ個人レッスンサポート講座」実施の経緯

2.1 本学幼児教育学科の現状や実施の背景

本学では入学試験にピアノの実技試験などは実施していないため、ピアノ初心者が多く入学してくる。かなり以前に1回のみ、合格者に対して有料で1日だけ入学前のピアノ個人レッスンを実施したことはあるが、「入学前教育」「接続」「初年次教育」などの言葉はほとんど耳にしない頃で、実施にあたっての意義・目的なども漠然としていたと言わざるを得ない。1回で次年度に続かなかった理由としては負担感の割には効果がさほど見られなかったことではないだろうか。

一昨年度までは、合格者へ「入学までの宿題」の実施と、入学後初年次教育として特に初心者を対象に「音楽基礎ゼミナール（読譜の基礎を演習形式で4～6月の間に4～5回実施）」を実施してきた。当初は、入学後最初の授業で簡単な「読譜の基礎」に関するテストを実施し、受講対象者を選抜した。2年前までは、ほとんどの受講生が欠席せずに受講し、受講後の感想などからも効果が認められていた。しかし、年を重ねるごとに時間割が過密になり実施するための空き時間を確保することがほとんど不可能に近くなってきた。また、次第に学生の意識も、授業外で行われるいわゆる補習授業が当たり前のように受け止められてきたのか、強制でないこともあり、簡単に欠席する学生も増えてきた。

ピアノ初心者は、確かに増加傾向にあるのであるが、むしろ、極端な初心者も増加傾向にあることが問題である。

中には僅かではあるが、目的意識や志望動機がやや希薄な入学生も存在し、1年前期中に休・退学になるケースも有る。この現状をなんとか防ぐ手だてはないかが本学幼児教育学科の課題となっていた。

他学科では2～3日の入学前講座を実施しており、幼児教育学科に於いても実施が望まれていた。「ゆとり教育」の結果として音楽の授業が半減し、音楽の知識技能の低下は思ったより深刻なのである。

2.2 目的

- 平成23年度までの第三者評価の総括内容を踏まえ、学生第一主義に対応するためピアノの個人レッスンを実施することにより入学への不安感を払拭する。
- 1年生の中には、ピアノ技術が極端に不得手であるとの理由から、休退学する学生が見られ始めたことを非常事態だととらえ、新入学生を対象に、合格決定から入学までの間、ピアノ技術向上を目指してきめ細やかなサポート体制を敷く。
- 音楽指導は、非常勤講師も含め11人で指導しているため、情報の共有化や連携を深め、学生へのきめ細やかな指導を行うために全員連絡会を実施する。

2.3 内容

①第1回 事前指導（希望者）

- 大学で履修するピアノ技術の実態と実施要領の説明
- 練習してほしいピアノ課題曲の提示と練習法
- 音符・リズム・読譜の基礎知識

②第2回 ピアノ個人レッスン

- 午前 9：00～12：00……講師 4名
- 午後 13：00～16：00……講師 4名

③第3回 ピアノ個人レッスン

- 午前 9：00～12：00……講師 4名

午後 13:00~16:00……講師 4 名

2.4 運営

○講師 1 人で 3 時間。一人 30 分で 1 時間に 2 人、

午前中 3 時間 6 人

○講師午前 4 人午後 4 人計 8 人を配置、午前 3 時間、午後 3 時間で対応

() 円 / 1 人 × 3 時間 × 8 人 (講師) =

() 円 (交通費別) 1 回で 48 人

学生 48 人が 2 回受講

②事務費試算 (アルバイト雇用 () × 7 時間 × 2 人 × 2 日 = () 円

・文書作成・送付と回答の整理・希望者確認と講師への振り分けは事務部

・レッスン当日 (2 日) 受付等の張り付き対応はアルバイト述べ 4 人

○新入学生の自己負担なし。(旅費は自己負担)

○就学後の学生がピアノを計画的に練習することによって、自信に繋げるだけでなく、大きな宣伝効果が生み出せる。

2.5 実施要項

「ピアノ個人レッスンサポート講座」実施要項

第 1 回 12月26日 (木) 「ピアノ個人レッスンサポート講座」オリエンテーション

9:30 9:55	受付 (1号館1階学生ロビー) ※受付後記念ホールへ集合		
10:00 10:30	オリエンテーション ①学科長挨拶 ②実施要綱の説明 ③諸注意 (ピアノ室の使用法など)		
10:40 12:00	<table border="1"> <tr> <td> 初心者のための音楽基礎講座 (テキストを使用) ① ピアノの練習法 (拍子とリズムの取り方、読譜の基礎、楽譜とピアノの鍵盤の関係など) ② 第2・3回ピアノ個人レッスンへの課題とその練習方法について </td> <td> 第2・3回レッスンのクラス分け ※終了時にクラス分けプリント配布 </td> </tr> </table>	初心者のための音楽基礎講座 (テキストを使用) ① ピアノの練習法 (拍子とリズムの取り方、読譜の基礎、楽譜とピアノの鍵盤の関係など) ② 第2・3回ピアノ個人レッスンへの課題とその練習方法について	第2・3回レッスンのクラス分け ※終了時にクラス分けプリント配布
初心者のための音楽基礎講座 (テキストを使用) ① ピアノの練習法 (拍子とリズムの取り方、読譜の基礎、楽譜とピアノの鍵盤の関係など) ② 第2・3回ピアノ個人レッスンへの課題とその練習方法について	第2・3回レッスンのクラス分け ※終了時にクラス分けプリント配布		

第 2 回 1月11日 (土) 「ピアノ個人レッスンサポート講座」個人指導

午前 9:00~12:20		午後 13:00~16:20	
8:40 8:55	受付 (1号館1階学生ロビー)	12:40 12:55	受付 (1号館1階学生ロビー)
9:00 9:20	オリエンテーション (音楽室) ① スタッフ紹介とクラス分け ② 諸注意 (ピアノ室の使用法、次回のレッスンに向けて等含む)	13:00 13:20	オリエンテーション (音楽室) ① スタッフ紹介とクラス分け ② 諸注意 (ピアノ室の使用法、次回のレッスンに向けて等含む)
9:20 12:20	各レッスン室へ移動し「個人レッスン」 (レッスン終了後は受付へ連絡後流れ解散)	13:20 16:20	各レッスン室へ移動し「個人レッスン」 (レッスン終了後は受付へ連絡後流れ解散)

第 3 回 3月20日 (木) 「ピアノ個人レッスンサポート講座」個人指導

午前 9:00~12:20		午後 13:00~16:20	
8:40 8:55	受付 (1号館1階学生ロビー)	12:40 12:55	受付 (1号館1階学生ロビー)
9:00 9:20	オリエンテーション (音楽室) ③ スタッフ紹介とクラス分け ④ 諸注意 (ピアノ室の使用法、次回のレッスンに向けて等含む)	13:00 13:20	オリエンテーション (音楽室) ③ スタッフ紹介とクラス分け ④ 諸注意 (ピアノ室の使用法、次回のレッスンに向けて等含む)
9:20 12:20	各レッスン室へ移動し「個人レッスン」 (レッスン終了後は受付へ連絡後流れ解散)	13:20 16:20	各レッスン室へ移動し「個人レッスン」 (レッスン終了後は受付へ連絡後流れ解散)

2.6 実施の実務

実施計画に基づいて「講座の案内」「実施要綱」「テキスト」「春休み中の課題」などを作成したり、指導スタッフの確保調整などを行った。

3. テキストについて

3.1 テキスト作成の目的

本学では、ピアノ初心者はバイエル教則本を使用しているが、50番までは右手も左手もト音記号であるため本来の左手の記号であるヘ音記号の読譜力がなかなか身につかない。そのため、子供の歌の伴奏譜などの読譜が思うようにいかない事実がある。初心者も2年間、いや実質的には1年間で子供の歌の伴奏や弾き歌いができるようになるためには、早い段階で、ヘ音記号に親しむ必要がある。このことを重要な問題と捉え、バイエルの10番台から30番台の練習曲の左手を、ヘ音記号に置き替え、読譜の基礎が何かを明確にするため、あえて、拍子とリズム、音符と鍵盤と指番号の練習課題曲を掲載した。

3.2 テキストの内容について

具体的内容については本報告では割愛し、テキストのはじめと終わりの部分を次に掲げる。

〈保育者を目指す皆さんへ〉

入学後は、全音出版社の「標準バイエル教則本」もしくは「全訳バイエル教則本」を使用して授業を行いますので各自で準備してください。

「子どものバイエル」などを使用されている場合は改めてご購入ください。

すでに、バイエルテキストを終了されている方もバイエル80番以降を数曲練習してきてください。最初の授業の際に練習してきた曲を各教員が聞いて、次のテキスト及び練習曲を指示いたします。

なお、1年次の授業では、子どもが大好きな「季節のうた」「や生活のうた」「小動物の歌のうた」などの「弾き歌い」にも取り組んでいきます。

まずは、「ちょうちょう」「おかたづけ」「ぶんぶんぶん」「かっこう」「メリーさんのひつじ」などの簡単な伴奏による「弾き歌い」から始めま

すので、できればメロディーを弾いてみたり、歌詞を読んだり、歌ってみたりして親しんで欲しいと思います。

また、本学幼児教育学科の特色として「コード伴奏法」の授業もあります。子どもの歌の伴奏がより簡単に音楽的にできるための学習です。

このテキストにしっかり取り組むことで入学後の個人レッスンなどにスムーズに入っていけ、親しんでいけることを願っております。

— 目 次 —

- ・リズムの練習をしましょう。…………… 1～4
- －拍子の練習
- －リズムの練習
- ・読譜の練習をしましょう。…………… 5～10
- －ドの位置を覚えましょう
- －音階を覚えましょう
- －音階を②の楽譜に習って書いてみましょう
- ・ピアノ奏法始め一歩です。…………… 7～11
- －指の番号を覚えましょう
- －まず右手で下の楽譜を弾いてみましょう
- －左手で弾いてみましょう
- －両手で弾いてみましょう
- －ド～ソまで①②と同じように拍子を取りながら弾いてみましょう
- －両手で弾いてみましょう
- －音階を弾いてみましょう

保育者を目指す皆さんへ

入学後は、全音出版社の「標準バイエル教則本」もしくは「全訳バイエル教則本」を使用して授業を行いますので各自で準備してください。

「子どものバイエル」などを使用されている場合は改めてご購入ください。

すでに、バイエルテキストを終了されている方もバイエル80番以降を数曲練習してきてください。最初の授業の際に練習してきた曲を各教員が聞いて、次のテキスト及び練習曲を指示いたします。

なお、1年次の授業では、子どもが大好きな「季節のうた」「や生活のうた」「小動物の歌のうた」などの「弾き歌い」にも取り組んでいきます。

まずは、「ちょうちょう」「おかたづけ」「ぶ

んぶんぶん」「かっこう」「メリーさんのひつじ」などの簡単な伴奏による「弾き歌い」から始めますのでできればメロディーを弾いてみたり、歌詞を読んだり、歌ってみたりして親しんで欲しいと思います。

また、本学幼児教育学科の特色として「コード伴奏法」の授業もあります。子どもの歌の伴奏がより簡単に音楽的にできるための学習です。

このテキストにしっかり取り組むことで入学後の個人レッスンなどにスムーズに入っていけ、親しんでいけることを願っております。

4. アンケートについて

平成25年度入学生ピアノ個人レッスンサポート講座アンケート集計結果（カッコ内は人数）

- ①受講状況を教えてください。(53) 1回目
(53) 2回目 (58) 3回目
合格者のほぼ半数が受講。3回目は一般前期、自己推薦入試合格者の受講者も加わっている。
- ②この講座を受講した理由を教えてください。(複数可)
- ① (8) 全員受講が義務だと思ったから
② (28) 初心者だから
③ (29) ピアノ経験はあるが、初心者に近いと思ったから
④ (50) 短大へ入学後のピアノレッスンが不安なため
⑤ (6) 短大合格後新たな目標ができたから
⑥ (26) 保育者を目指す大事な一歩だと思った
複数回答であるが、初心者あるいはそれに近い、入学後のピアノの授業に一抹の不安もあることがうかがえる。
- ③この講座を受講してためになりましたか。またその理由も教えてください。
- (ア) (42) 非常にためになった
理由： (省略)
(15) ためになった
理由： (省略)
(0) あまりためにならなかった
理由： (省略)
ほぼ全員がためになったと回答している。

④この講座を受講の間、どの程度練習しましたか。

- ① (3) 1週間に5時間以上
② (25) 1週間に3時間以上
③ (19) 1週間に1時間以上
④ (12) 1週間に1時間未満

1週間に1時間から3時間が最も多いが、1時間未満も12名いるので今後の課題といえる。

⑤この講座を受講して不安感は軽減しましたか。

- ア. (6) 十分軽減した
イ. (23) ある程度軽減した
ウ. (23) どちらとも言えない
エ. (5) 少し不安感が増加した
オ. (2) さらに不安感が増加した

「十分軽減した」「ある程度軽減した」が合わせて29名「少し不安感が増加した」「さらに不安感が増加した」あ合わせて7名と、約半数の受講生は不安感の軽減となっていることは重要であるが、「少し不安感が増加した」「さらに不安感が増加した」があ合わせて7名いるがその原因が何であるのか今後の課題となる。

⑥この講座の負担感について教えてください。

- (ア) (49) 3回の講座は丁度よかった
(イ) (5) 3回以上あった方がよい
(ウ) (2) 3回の講座は多いと思う
(エ) (3) この講座受講に際して別にピアノレッスンを受けた

ほとんどの受講生が「3回の講座は丁度よかった」と3回の講座は適当であったと言えるのではないか。

⑦この講座を受講しての感想を聞かせてください。(省略)

以上

5. おわりに

多忙化の中での計画で、少々強引な実施ではあったが、昨年度入学生と比べると今年度入学生の方が目的意識もしっかりしていると、本学幼児教育学科の他教員も感じている。また、今のところ休退学者も減少しており、アンケート結果からも好評ではある。ただし、入学生のほぼ半数の受

講で、是非受講して欲しい入学生(ピアノ初心者)が受講しているとは限らない。

入学者選抜については、活動募集(高校訪問や学校説明会など)で、本学志望の生徒から「ピアノ初心者なんですが大丈夫でしょうか?」の答えについて、学内でのコンセンサスをしっかりとることや、募集要項に何らかの条件が必要かも含め、今後検討していく必要もある。

本講座にヒントを得た学科長の提案で、系列女子高校の幼児教育志望の3年生を対象に本年度(平成25年度)8月に約1週間、午前9時から午後3時まで「ピアノ」「楽典」「声楽」の集中指導も実施した。その結果、高校での授業ではなかなか進まなかった「バイエル教則本」が10曲前後進めたと、ほとんどの生徒が喜び、「やればできるんだ」と自信がついたとの声を多く耳にした。

このことは、在学生にも言えることで、まだ実習の無い1年生の夏季休業中にこそ必要ではないかとの問題提起にもなった。

まとめるところが、さらなる問題提起になってしまったが、以上のようなことも踏まえつつ、今年度も「ピアノ個人レッスンサポート講座」を実施した。昨年度の60名に対し本年度の参加者は100名と格段に増加した。

参考文献：

- 1) 白石景一、中村浩美(平成17年度)「保育者養成校における音楽指導法の研究－第1報－」『長崎女子短期大学紀要第30号』
- 2) 白石景一、中村浩美(平成18年度)「保育者養成校における音楽指導法の研究－第2報－」『長崎女子短期大学紀要第31号』
- 3) 白石景一、中村浩美(平成19年度)「保育者養成校における音楽指導法の研究－第3報－」『長崎女子短期大学紀要第32号』
- 4) 白石景一、中村浩美(平成20年度)「保育者養成校における音楽指導法の研究－第4報－」『長崎女子短期大学紀要第33号』
- 5) 白石景一、中村浩美(平成21年度)「保育者養成校における音楽指導法の研究－第5報－」『長崎女子短期大学紀要第34号』
- 6) 白石景一、中村浩美(平成23年度)「保育者養成校における音楽指導法の研究－第6報－」『長崎女子短期大学紀要第36号』
- 7) 中村浩美、白石景一(平成23年度)「保育者養成校に

における音楽指導法の研究－第7報－」『長崎女子短期大学紀要第37号』

- 8) 白石景一(平成25年度)第45回九州公私立大学音楽学会北九州大会学会誌「研究フォーラム」発表要旨